

コロナ禍における新たな自殺予防の取り組みについて

自殺は、個人の自由な意志や選択の結果ではなく、健康問題、経済問題など、様々な社会要因が複雑に関係して起こり、その多くが追い込まれた末の死であり、防ぐことができる社会的な問題であるといわれています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、雇用や暮らし、人間関係などが悪化して社会全体の自殺リスクが高まっているといわれる中で、明石市においても今後の自殺者の増加が懸念されます。自殺者の現状や、コロナ禍におけるさらなる自殺予防の取り組みについて報告します。

1 自殺者の現状

(1) 自殺者数

	2017年	2018年	2019年	2020年(速報値)
明石市	43	54	54	50
兵庫県	967	929	863	888
全国	21,127	20,668	19,974	20,470

(2) 自殺率

	2017年	2018年	2019年	2020年(速報値)
明石市	14.39	17.93	17.81	16.68
兵庫県	17.25	16.61	15.49	16.34
全国	16.52	16.18	15.67	—

2 課題

- (1) 自殺をされた方は相談機関につながっていない人が多い。
- (2) ハローワークや金融機関など関係機関との更なる連携推進。

3 新たな取り組み

(1) インターネット検索連動広告掲載システムの導入

自発的な相談につながりにくく、自殺の手段等をインターネットで検索することが多いといわれている子どもや若者への相談窓口の周知を目的として、市内で自殺に関するキーワードをインターネットで検索した際に相談窓口を表示し、相談窓口の周知に努めます。

(2) 精神科医師を含めたチームでの相談支援の実施

自傷行為を繰り返すなど、深刻な生きづらさを抱えながらも、精神科治療や相談につながりにくい人を対象に、精神科医や保健師、精神保健福祉士などによるチームでの訪問による相談支援を実施します。

(3) 関係機関と連携したゲートキーパー研修の開催

ハローワークや金融機関など保健・医療・福祉以外の関係機関においても、自殺を考えている人の存在に気づき、専門機関につなぎ、見守るゲートキーパーの役割を担ってもらえるようICT（情報通信技術）を活用したゲートキーパー研修の実施を検討します。

<参考>

救急病院や警察からの自殺未遂者連絡延件数

年度	延件数
2018年	130
2019年	159
2020年（2021年1月末現在）	125